令和8年度　指定管理者総合評価表（評価対象年度：R7年度）

令和7年度事業に係る事業報告書等に基づき、指定管理者による管理運営状況について確認、検証した結果、下記のとおり評価しました。

施設名	津市まん中老人福祉センター
指定管理者	社会福祉法人　津市社会福祉協議会
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
施設の設置目的	高齢者の健康増進及び教養の向上等、地域の「憩いの場」や「生きがい活動の拠点」として、施設を提供することにより、高齢者福祉の増進を図る。
指定管理者の業務	・センターの使用の許可に関する業務 ・施設設備器具等の維持管理に関する業務 ・その他、市長が必要と認める業務
評価担当部課 （問い合わせ先）	健康福祉部高齢福祉課高齢福祉担当（電話059-229-3156）

評価は◎非常に良い、〇良い、△やや悪い、×悪いの4段階です

区分	評価項目	検証結果	評価結果
管理状況について	適正な人員配置	所長1名又は事務補助員1名の体制により、開館中は常時職員が配置され、施設の受付、利用者対応及び安全管理に必要な人員体制が確保されていた。	◎
	従事者の教育・研修	法人の研修計画に基づき、防災・避難経路研修、安全衛生研修、普通救命講習及び安全運転講習を受講していた。また、毎朝の打合せにより情報共有を行い、利用者への声掛けを通じた体調変化の把握や窓口対応の質の向上に取り組んでいた。	〇
	関係法令の遵守	津市まん中老人福祉センターに係る条例、地方自治法、老人福祉法その他の関係法令に基づき各種業務が実施されており、法令遵守上の問題は認められなかった。	◎
	緊急時等の対応	津センターパレス及び法人の消防・防災計画に基づき、避難訓練及び消火訓練を実施したほか、消防設備の定期点検と職員による自主点検を行っていた。また、職員はAED操作及び救命救急法を習得し、法人内連絡網による応援体制を確保するなど、適切な対応体制が整えられていた。	◎
	備品等の管理	備品の使用状況及び安全性を確認しながら管理していた。故障したマッサージチェア1台は撤去し、安全性を確保した上で残る1台を使用に供していた。	◎
	個人情報保護	利用者情報等について、個人情報保護に関する法令その他の関係規程に基づき適切に取り扱っており、個人情報の漏えい等の問題は報告されていない。	◎
	施設・設備の保守点検	複合施設全体を管理する株式会社津センターパレスと連携し、日常点検による不具合の早期発見、通報及び対応に努めていた。また、ヘルストロンについて専門業者による定期的な保守点検を実施していた。	◎
	清掃業務	施設内の日常清掃及び点検を行い、清潔で快適な室内環境を維持していた。また、各室のフロアカーペット及びカラオケ室の空調設備について、専門業者による洗浄清掃を実施していた。	〇

	警備業務	複合施設全体の管理者による警備に加え、事務室から離れたカラオケ室の状況を防犯カメラで確認していた。また、駐車券等を金庫で保管し、出入口の施錠を徹底するなど、適切な防犯対策が講じられていた。	◎
	環境への配慮	法人本部の管理の下、適正な予算執行、経費削減、省資源及び省エネルギーに取り組み、市内業者を優先した見積合せ等により、効率的な運営に努めていた。	○
	報告書等の整理及び提出	利用状況等に関する定期的な報告を行うとともに、施設の不具合、修繕、事故等について必要な連絡及び報告を行う体制が確保されていた。	◎
運営状況について	利用状況	令和7年度の総利用者数は6,549人で、前年度の7,283人から734人、約10.1%減少した。卓球及び囲碁の利用は増加した一方、利用者の高齢化や天候の影響により、カラオケ及び健康器具の利用が減少したほか、隣接立体駐車場の大規模改修による利用制限等も来館者減少の要因となった。外的要因を含むものの、利用者数が減少しているため、利用促進に向けた取組が求められる。	○
	利用者満足度の向上	利用者の意見を踏まえ、80歳代の利用が増加した卓球の利用日を増やしたほか、囲碁の利用日を変更するなど、ニーズに応じた運用改善を行った。また、カラオケや囲碁を一人でも利用しやすい環境づくりに努めていた。	◎
	地域や関係団体との交流・連携	津市、法人各課、市内の老人福祉センター等と情報交換を行い、利用者や地域のニーズに応じた事業の実施に努めていた。また、保健師、消費生活相談員、民間事業者等と連携し、健康、防災、消費者被害防止等に関する講座を実施していた。	○
	利用者の苦情、要望等の対応	日常の窓口対応や利用者への声掛けを通じて意見及び要望を把握し、卓球の利用日数の増加や囲碁の利用日の変更など、可能な範囲で施設運営の改善に反映していた。	○
	事業の実施状況	看護師による健康相談、卓球、カラオケ、囲碁及び健康器具の利用支援等を行い、高齢者の健康保持と交流を支援した。一方、健康相談は11回、延べ36人にとどまり、ラジオ体操も参加者の減少によりほとんど実施できなかったことから、利用者ニーズに応じた事業内容の見直しが必要である。	○
	その他	手指消毒、体温測定、マスク着用等の基本的な感染予防を継続するとともに、使用後の健康器具等を職員が消毒していた。新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザの流行時にも、センター内での感染は確認されなかった。	○
自主事業について	自主事業の適切な実施	参加者の確保が困難な中で、「まん中さわやか教室」を年間12回開催し、軽体操、健康、防災、消費者被害防止等に関する講座に延べ99人が参加するなど、積極的に自主事業に取り組んでいる。	○
雇用・労働条件について	労働関係法令の遵守	労働関係法令に配慮した雇用及び勤務体制の下で業務が実施されており、雇用・労働条件に関する問題は報告されていない。	○
収支状況について	収支決算状況	法人本部の管理及び経理規程に基づき、予算の適正な執行、見積合せによる調達、経費削減並びに省資源・省エネルギーに取り組んでいた。	○

【総合評価】　※適正な管理運営を行ってきたかを記入する

津市まん中老人福祉センターは、中心市街地における高齢者の健康増進、交流及び生きがいづくりの拠点として、おおむね適正に管理運営された。施設・設備の点検、衛生管理、防犯・防災対策及び職員研修が適切に実施され、安全で利用しやすい環境の確保に努めていた。

利用者数は6,549人で前年度から734人減少したが、利用者の高齢化や隣接駐車場の改修等の影響があった。利用者の意見を踏まえ、卓球の利用日を増やすなどの改善を行ったほか、「まん中さわやか教室」を年間12回開催した。収支についても予算の範囲内で適正に執行され、911,455円の黒字となった。一方、利用が減少した事業や一部未実施の自主事業があるため、利用者ニーズに応じた見直しが必要である。以上から、全体としておおむね良好に運営されたと評価する。

【指定管理者に対して行った指導助言の内容・今後の業務改善（向上）に向けた考え方】

利用者への公平かつ丁寧な対応を継続し、複合施設管理者と連携して設備の点検及び安全管理を徹底するとともに、故障した備品については利用状況や必要性を踏まえて更新等を検討するよう助言した。

また、利用者数の減少や自主事業の一部未実施を踏まえ、高齢化に対応した参加しやすい事業内容や開催方法を検討し、健康相談等の周知及び新規利用者の確保に取り組むよう求めた。収支は黒字であるものの、事業費や修繕費等に未執行額があるため、サービス水準と施設の安全性を確保した上で、計画的かつ適切な予算執行に努めるよう助言した。